

キリストの光のキリスト

年間第19主日

8月9日

(ヨハネ6・41—51)

イエスがパン

今日は年間第十九主日ですが、第十七主日から命のパンをテーマとするヨハネ福音書の六章が読まれています。年間第二十一主日まで続きます。

年間第十七主日は五つのパンと二匹のさかなで五千人もの人々が満たされた話でした。

この日、わたしは地区の聖書講座を担当していました。大雨が続いていた日で、参加者は少ないと見込んでいました。ちょうどフィリポやアンデレが大群衆の前に「計算」して「何の役にも立たない」と言っていたように、自分なりに計算して、講座に来る人は少ないと決めつけていました。普段は九十部くらいの資料を準備するのですが、たぶん四十部で十分だと思っていたいました。大雨警報が出ていたのですから…。

予想外に人が集まってきます。だんだん不安になってきま

した。資料を五十部に増やしました。講座が始まるころには六十部に増やしました。それからまた五部増やして…。

講座で話したこと…。わたしたちの小さな思い、小さな行い、それをわたしたちはミサで奉納する。「それをイエスは取



り、感謝の祈りを唱えてから」またわたしたちに分け与えてくれる。ご自身を分け与えてくれる。そして、わたしたちは「満腹」する。たとえば、平和を求めるわたしたちの「小さな願い」。平和のためにする小さな行い。こんなことを願っても、こんなことをしたって何にもな

らない…と考えてしまう。でも、イエスはそれを取り、祝福して感謝のうちに天の父にささげてくれる。

講座の休憩の間、雨はやみ、光が射した。庭でゆっくり談笑することができた。また、雨が降った。でも帰る時には雨はやんだ。皆、喜んで帰途に就いた。

皆が帰ってしまった後、気づいた。フィリポやアンデレが計算していたように、自分も「計算」していたことに。こんな雨では人が来るはずはない、と。人が集まり、雨がやみ、喜んで帰った人たちを見て、最後に自分が気づいた。

イエスをお遣わしになった父が引き寄せてくださったから、人が集まった。父から呼ばれたから集まったのだ。わたしが講座をするから集まったのではない。

『彼らは皆、神によって教えられる』。わたしが教えるのではない。イエスは言う。「わた

しが命のパンである」と。パンはわたしではなく、イエス。天から降(くだ)ってきた生きたパン。これを食べる者は死なない。永遠に生きる。

ちなみに、今年六回にわたって開かれる聖書講座のメインテーマは「いただきます」神のこ とばを食べる」。分かったつもりで話していた自分。分かっているのは自分だということがよく分かった。感謝。

(山元眞二福岡教区司祭)

年間第19主日の週の福音

10日・月	ヨハネ	12・24—26
11日・火	マタイ	18・1 — 5、10、12—14
12日・水	マタイ	18・15—20
13日・木	マタイ	18・21—19・1
14日・金	マタイ	19・3 — 12
15日・土	ルカ	1・39—56